



2 月 号

昭和60年2月1日
 編集 / 発行
 岡崎市教育委員会

郷土室へ入ったら
 むかしになったみたい
 むかしの人たちが使った
 いろんな道具が いっぱい

びつくりしながら考える
 「むかしの物は
 体で動かす物が多いね」

子どもたちは 目を見開いて
 むかしを 見回す
 そして 今を知る

ここは 広幡っ子の学習の場



(温故知新一広幡小)

大学生には実に様々なタイプがある。試験成績はさほどでないのに、専門家の盲点を突く素晴らしい着想をずばり言っている学生もいる。また、ひたすらテキストや講義内容を忠実に理解し、要領よくまとめる学生もある。教師としては、どちらのタイプにも満足できる。

ひとつの教室の中で、多彩なバリエーションの学生を前にして、教師は戸惑いを

— 教育随想 —

私大教育の現場から

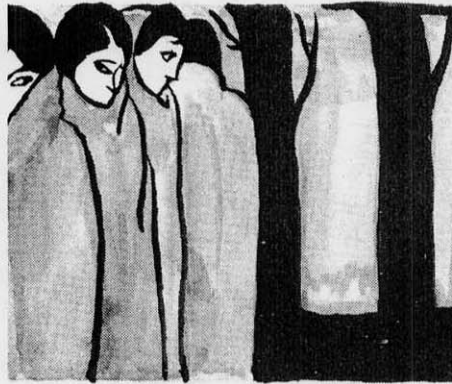
中岡 三益

感じる。特に演習の時間にそれが大きい。戸惑いを軽くするためには、どうやら小クラス編成の演習による対話の積み重ねしかないように思われる。教師と学生、学生相互の対話が行われるように進んだ時、学生たちも爽快な気分を終業のベルを聞けるようである。特に着想の素晴らしい学生の能力は、対話で引き出す以外にはないのではないか。

現実には、私立大学の学生全員を小ク

ラスの演習に編成するのは難しい。一年生から四年生までを対象に、一貫して編成するのは、さらに難しい。しかし、ここに大学教育の原点があることは、関係者ならば、だれしも承知している。最近、私立大学のなかでも、この原点に立ち帰る方向で取り組んでいるところが増えて

いる。



の中東研究演習（七名）、三年生の中東研究演習（十三名）、一年生のアジア文化演習（二十六名）を担当している。私の経験では、一クラス十名くらいまでが適正なクラス編成と考えている。それを超えると、対話の密度が薄められ、逆に、五名以下では、対話の内容が多様化できないように思われる。

一年生の演習クラスには、東南アジアからの留学生が二名含まれている。日本

語は未だ完全ではないが、ある日、東南アジア留学生の眼に映じた日本文化論を発表し、日本人学生に、アジア文化を見る新しい視座を考えさせる契機となった。海外からの帰国子女も四名含まれている。彼らの外国文化体験も対話を豊富にしてくれる。

中東研究演習の学生で、一時は僧侶を志し、仏教に深い関心を持つ学生がいた。

この学生はしばらくの間余り発言しなかったが、ある日、日本の仏教と西アジアのイスラーム教の比較について、日本仏教を中心に一時間ほど報告した。その日以来、彼の発言が目に見えて多くなった。

中東研究演習といっても、学生の関心は、宗教、それもイスラーム教、キリスト教、ユダヤ教から、石油問題、米ソの中東政策、婦人問題、果てはイスラーム地域の音楽に至るまで広がっている。これだけのバリエーションがあると、対話のなかから何が飛び出してくるか予想もできない。教師は、オーケストラの指揮に懸命になる。時には教師も楽器奏者に早変わりする。

学生のなかには欠席の多い者もいる。しかし、生まれつきなまけ者でずる休みする学生は稀である。ついて行けない、つまり、対話に参加する糸口がないと思いで込んでしまった学生が欠席する。欠席しても、コンパには出て来る。教師のところににも来る。彼らも対話に参加したいのだ。

（国際商科大学教養学部教授）

甘言苦言

卒業式



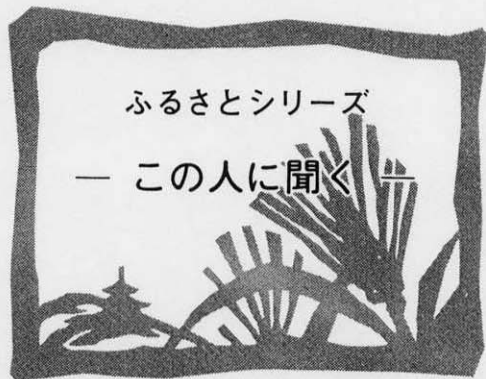
厳粛で深い感動を

矢作南小学校長 杉浦 英夫

小学校六年の生活に終止符を打ち、児童・教師・保護者が相互に祝い、喜び、新しい生活への希望を抱く。学校、社会などへの所属感を深めるとともに、集団の場における規律的な気品のある態度を育てるのに、卒業式は最もよい学校行事ではなからうか。新しい感動を抱くことによつて、新たな成長を期待するものがある。

年間を通じて、卒業式を最も大事な学校行事と考えている。卒業式もすべて授業である。適切な準備、資料づくりもして、深い感動の場を構成していかなければならないのである。

本校では、二百二十余名の卒業生一人ひとりに卒業証書を手渡す時間的余裕もないため、一括代表者というようにしている。なんとか儀式としての感銘を深めるために、六か年間の思い出や顔をスライド投影することになっている。



更生保護を願って

天野夕子コ氏

「とにかく親が仲よくしなけりやだめです。すぐけんかをししたり、離婚沙汰を引き起こしたりする家庭では、子どもはよくありません。温かい家庭にこの子どもを置けたらもっと良い子になれるんだが…と思うことしきりです。」

昨今の青少年の問題行動の根源は家庭にあると、天野さんは、きっぱりと指摘された。

天野さんは、保母を二十年勤めた後、昭和二十四年から保護司の道に入られた。以来三十五年、罪を犯した者や非行のある少年たちの更生を願い、保護し、援助するという、地味ではあるが、人道し重

要な仕事に力を注がれてきた。家庭裁判所の審判で必要と認められた場合、保護司が最低二年間の保護観察を続ける。月二回の面接が原則だが、それもなかなか実行されないことが多いと言う。

「面接にあたっては、まず話を聞いてやることです。こちらが受け身になることが必要で、決して一方的な訓戒をしてはいけません。それでも指導しなくてはならない時には、しっかりと反省を促します。何しろ、保護司の仕事は信頼関係が基ですからね。」

天野さんの話しぶりには、温かさと同じに、長い経験に裏づけられた強い信念がのぞく。

保護観察の対象となるケースでは、交通違反や窃盗が多く、特に、親に隠れて無免許運転をし、どうにもならない事故を引き起こしてしまう例などはよくあると言う。そんな時、親身になって話し相手になるのが天野さんである。

「家族からの頼みで、北風の吹く中を家出の捜索にあちこち歩き回ったり、深夜二時ごろ『手に負えないから鑑別所に入れてくれ。』と泣き付かれ、夜を明かして懇々と諭したり、家中大騒ぎになることもありました。それに、一生懸命尽くしたにもかかわらず、再犯を繰り返し、揚げ句は行方不明になってしまいう時なんかは、とつても悲しいですね。でも、反対に『先生、お陰様で結婚できました。子どももできて…』と、訪れてくれたり、手紙をもらった時は、家中で喜び

合いますね。」

無報酬で、時間の決まっていない保護司の仕事に献身的な努力をされる天野さんの後ろに、家族の温かい理解と協力が強く感じられた。

最後に、今の中学生の問題に触れ、親の自覚を促された。

「中学生になったから手が離れたと安心するのでなく、中学生になったからこそ、もっと考え方や行動をわかって親が努力することが大切ではないでしょうか。」

長年の功が認められ、昭和五十五年には「勲五等瑞宝章」を受賞し、今は、岡崎保護区副会長として活躍されている。

生年月日 明治四十一年四月六日
住 所 岡崎市六名東町五の十三



小学校生活のフィナーレを飾るにふさわしい最後の感動の中で送り出してやりたい。卒業式は厳粛でありたい。そして、深い感動をも焼き付けてやりたい。

教師と生徒の信頼関係

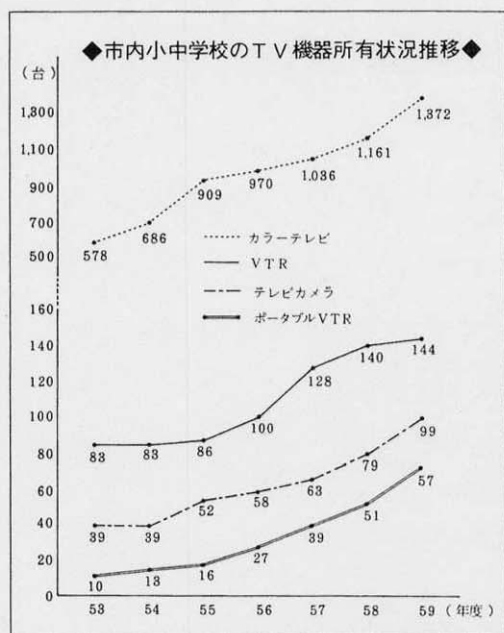
竜海中学校長

大原 和之

学校行事の中で最も大切であり、立派に行わなければならないのは卒業式である。六か年、若しくは三か年の業を積み、生徒の一人ひとりが未来に向かって羽ばたく時だからである。

私は、ある中学で、二学期にクラス対抗の合唱コンクールを開いたことがある。中三ともなると気恥ずかしさもあつて、うまくできないのではないかと懸念したが、生徒たちはとても熱心に練習に励み、各クラスから歌声が流れていた。コンクールに向けてクラスの団結は一層強まり、素晴らしい学級づくりがなされたのである。

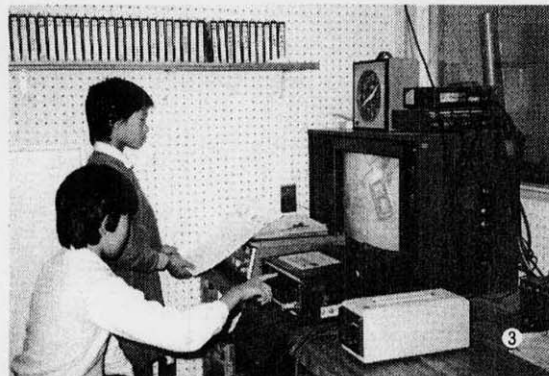
卒業式の近づいたある日、卒業生数名が来て、「コンクールの課題曲を卒業式に歌わせてください。」と言う。卒業式は生徒と先生とで創造してゆくものであるとの考えに立ち、快く許可をした。式の当日は「仰げば尊し」の後、課題曲「大地讃頌」を涙ながらに合唱し、卒業生は勿論父兄も感動の中に式を終えたのである。常日ごろの先生と生徒の信頼関係こそ、すばらしい卒業式の原動力ではないだろうか。

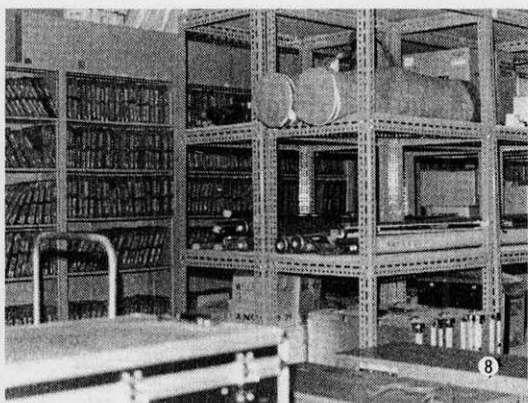
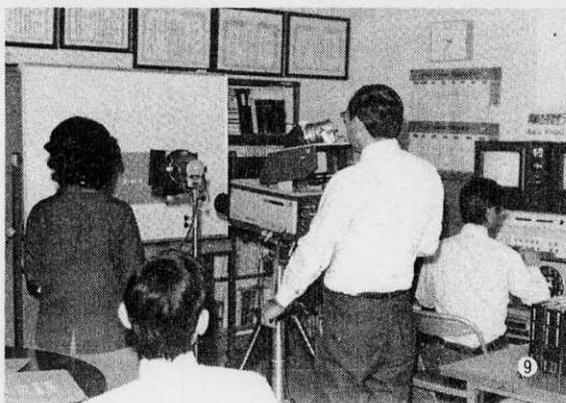
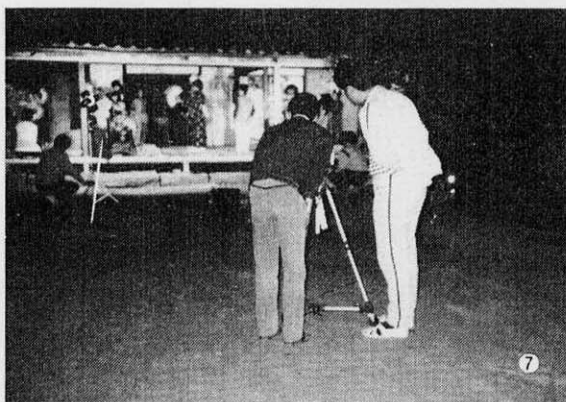
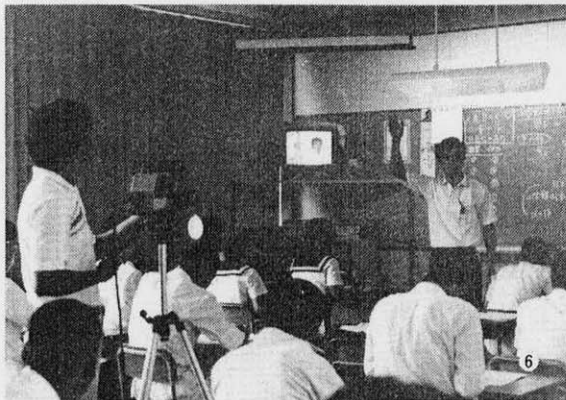


二月一日は、「テレビ放送記念日」。そこで、岡崎市内小中学校における視聴覚教育、特にテレビ放送にスポットを当て、その現状と充実ぶりを紹介したいと思う。

昭和四十三年、初めて城北中学校に校内テレビ局が開局された時、驚嘆の声が漏れ、大きな話題となった。あれから十数年、今では多くの小中学校で、朝や昼の放送、授業、行事等で独自の活用がなされている。また、昭和四十九・五十年、市特別教育予算により、全小中学校にカラーVTR、モニターTVが設置されたことは、大幅に活用範囲を広げ、視聴覚教育に一大改革をもたらしたと言えよう。このように、視聴覚教育の歩みには、機器の充実とともに着実に実践を重ねてきた姿が見られる。

こうした充実・発展を陰で支えてきたのが視聴覚ライブラリーである。ライブラリーは、昭和二十九年「岡崎市小中学校視聴覚教育協会」として発足以来、数多くの実技講習会や研修会を開催し、技術の向上を図る一方、自作視聴覚教材の制作や研究誌発行等を手がけてきた。二月二十四日(日)にせきいホールで行われる「映像フェスティバル」には、内外から大きな期待が寄せられている。





- ① カラー三元共聴テレビシステムを導入した校内放送。異なった三つの映像を同時に各教室に放映することのできるシステムで、情報量は飛躍的に増大した。
- ② 映像による昼の校内放送。子どもたちの自主的な運営によりユニークで楽しい番組が放映されている。
- ④ 放送委員による取材活動。ポータブルビデオやテレビカメラの軽量化・高性能化により、取材活動が容易になった。
- ⑤ VTRを利用した授業研究でも大いに効果をあげている。教師の発問や子どもたちの反応の記録など、授業改善に役立っている。昨年度より三か年計画で導入が開始された双方向システム。
- ⑥ 自作ビデオ教材作りに励む。岡崎市の先生方が制作された作品は、毎年全国コンクールでも高い評価を得ている。
- ⑧ 視聴覚ライブラリーには数多くの貴重な映像資料や機材が保管され、活発に利用されている。
- ⑨ 視聴覚ライブラリーでは、先生方が定期的に実技講習会や研究会を開き、技術向上に努めている。

お先にどうぞ

広幡幼 筒井 治子

製作好きのB君は、「待つ」ことが苦手である。少しでも待たされると、泣いてすねて、放り投げておこる。

入園当初、私は、他の子どもに待ってもらって、B君の要求に応じてきた。しかし、二学期中ごろからは、少しづつ「待つ」場を与えて、できた時は、うんとほめるようにしてきた。

そんなある日、カメラ、望遠鏡、車など、思い思いのものを作り始めた子どもたちは、できない部分を私に手伝ってもらおうと、長い列をつくった。どの子ども自分の番を待っている。



いきなり、B君が横から手をだして、

「作って。」

と言った。

「みんな、並んで待ってるのよ。B君も並んで待ってね。」
B君が注意すると、泣いておこりはじめた。

この様子を、四番目に並んで見ていたMちゃんが、自分の前を指さして言った。

「ここへ、入ってもいいよ。」

「ここでも、いいよ。」

と、他の子どもも、ゆずった。

この言葉に、B君は泣きやんで、Mちゃんたちを見た。でも、すぐ作ってもらえないことを知って、ピイツと横を向いた。

Mちゃんは、そのまま、自分の番を待った。そして、二番目になった時、また、B君に声をかけた。B君は、無言ですりりと二番に入った。

「B君、早く番がきてよかったね。Mちゃんに、『ありがとう』をしなくちゃね。」

と、私が促すと、黙ってうなずき、笑いながら、Mちゃんの頭をポンと叩いた。

B君流の嬉しさと、照れくささの挨拶なのだ。

「B君たら、わたしの頭をたた

いちゃって……」

と、Mちゃんは、頭を撫ぜながら、にこやかに応対している。親切にした心地よさから、叩かれたことも気にならないようだ。

B君は、Mちゃんや周りの子どもたちの心に触れ、他の経験とも相まって、今では、三、四番なら待つことができ、叩くこともなくなっている。

B君が、友達に

「お先に、どうぞ。」

と言ってくれる日も、そんなに遠いことではないだろう。



中学年と中年

美合小 杉浦 耕一

「やかましい。」

「静かに。」

毎日毎日、同じ注意で一日が始まる。そして、何とも落ち着きがなく個性豊かな集団である

このクラスが受ける次の注意は、

「宿題を忘れた者、前へ。」

である。

「またか。昨日何やってた。」

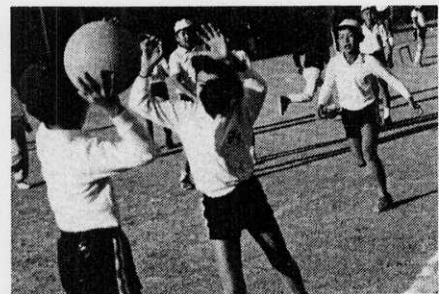
「今日もか。」

五・六人の子どもが次々とわたしの前に顔を見せる。

宿題といっても、漢字を五行書いてくるだけのものであるが、それができない。一日に、短い時間でよいから、机に向かい、文字を書く習慣を身に付けてくれたらと願うこの宿題。この子たちは、みごとに期待を裏切ってくれる。女の子は、そうでもないのであるが……。

女の子は、精神的な発達が早いせいから心身の内からの成長が感じられ、自己の完成を目指すような行動を見せてくれる。従って、やらなくてはいけないことや、やった方がよいと思われることには、あまり口やかましく言わなくても、根気よく取り組めるようである。

しかし、男の子は、大変活動的であり、考える前に体のほうから先に動いてしまうようにさえ見える。チャイムが鳴ると、放課になるのを待っていたかのようになり、運動場へ出てサッカーに熱中する。そこでは、ただ夢中にボールを追い、ゴールを目指



す姿があるだけである。

しかし、男の子は、自らの体を動かす中で、何かを学んでいるようだ。同級生との活動を通して、自己を磨いているのではなからうか。

私も、教諭になって十数年。ややマンネリ化し、なかなか物事に熱中して取り組むことがなくなってきたように思える。この中学年の熱中する姿に、また、素晴らしいバイタリティーに少々圧倒され気味でさえあるが、学ぶことも多い。

だからだとした生活では困るが、何かに熱中し輝きのある目をした子どもに、今日もまた話しかける。

「おい、宿題はどうした。」



おしらせ

● 県中学校長距離継走大会 ●

優勝 竜海中学校男子

第三位に南中学校男子

第三十三回愛知県中学校長距離継走大会は、去る十二月二十五日愛知青少年公園で開催された。

県内全域より、男子五十チーム、女子四十九チームが参加。

岡崎市からも、男子では竜海中学校、南中学校、常盤中学校、東海中学校の四チーム、女子では城北中学校、竜海中学校、福岡中学校の三チームがそれぞれ参加し健脚を競った。

その結果、竜海中学校男子チームは、見事第一位でテープをきり、南中学校男子チームも第三位に入った。

男子
優勝 竜海中学校

〔寄贈刊行物・資料等〕

◆ 研究実践 教職25年のあゆみ 豊嶋典明

変型B5 二二八ページ

◆ 84年度版 創意くふう展出品 作品集 岡崎商工会議所 B5 三六ページ

◆ 青年部白書 一九八四 一

教職員組合青年部

B5 二六ページ

◆ ゆとりある岡崎の教育をめざして 小中学校教職員組合 B5 四三ページ

◆ 昭和59年度 六中の教育 六ツ美中学校 B5 一〇〇ページ

■ 県自作TP入賞者

愛知県教育サービスセンターが主催する第十二回自作OHP・TTP作品募集において、岡崎市からは六十四点が応募され、二十六点が入賞した。

- ▽ 入選 犬塚尊夫(井田小) 高橋啓三(大樹寺) 白井紘子(小豆坂) 山本健治(大樹寺) 杉山隆之(常盤中) 内藤広光(南中)
- ▽ 佳作として二十名が入賞

第十一回 冬季研修会終わる

第十一回冬季研修会は、去る十二月二十五・六日、岡崎市少年自然の家で開かれた。市内小中学校から二二〇名の参加者があり、実り多い研修会であった。

第一日

- ・前岡崎市教育長鈴木正弘先生
- ・前京都大学教授上山春平先生

〔このごろ思うこと〕

〔天皇制の歴史〕

第二日

- ・野球評論家 木俣達彦先生
- ・お茶の水女子大学教授 外山滋比古先生
- ・岡崎市民病院内科第3部長 山岸美知子先生

〔教育と個性〕

〔病氣とたたかう〕

海外事情報告 鈴木忍先生(新香山中)

「ふるさとシリーズ」 第三集

点 — みちのべの文化財 —

近日刊行

野辺の石仏

町角の道標……

ぼつんと点のようにたたずむみちのべの文化財の中に、先人の願いや祈りをさぐり、喜びや悲しみの跡をたどる『点—みちのべの文化財』B6判二四〇

ページが三月上旬刊行の運びとなった。岡崎のふるさとシリーズ第三集として発行されるもので、ふるさとシリーズ編集委員 会(委員長安藤幸夫校長)の手で進められている。写真、地図を入れたふるさと再見の好著。

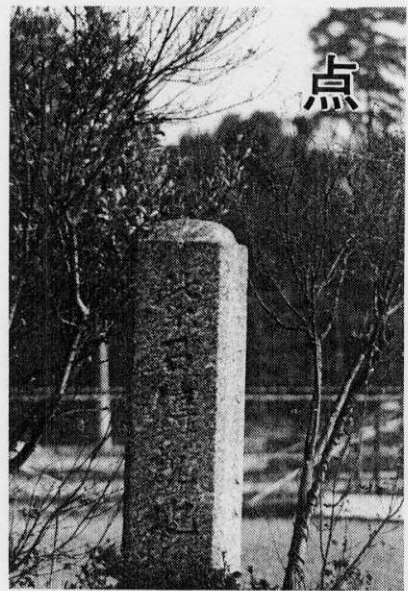
昭和六十年年度研究発表校

※は研究指定校

学 校 名	教科・領域	発表予定日
六ツ美中部小学校	国 語	六月 七日(金)
矢作東小学校	学習指導全般	六月 十八日(火)
常盤小学校	国語・算数	六月二十八日(金)
美川中学校	教育工学	九月 二十日(金)
※南 中 学 校	生徒指導	十月 十八日(金)
※六 名 小 学 校	道 徳	十月二十九日(火)
※広 幡 小 学 校	学習指導	十一月 五日(火)
美合小学校	作文・図工	十一月十九日(火)

中間発表校は、上地小・三島小・矢作中・新香山中の四校。

点



所在地—岡崎市矢作町

紫石伝説碑

平安時代の末期、矢作に兼高長者という豪族がいた。最愛の娘である浄瑠璃姫が源義経との悲恋のすえ、あえなく菅生川原でこの世とのいとまを告げた後、長者は姫の菩提を弔うことに一杯の努力をした。各地の寺社に姫の遺品を納め、莫大な寄進をしたという。

これらの遺品の一つ、姫が義経と愛を語らった庭に据えてあった紫色に輝く庭石は、矢作の八幡宮に奉納された。

そして、幾星霜、秘宝の庭石もいつしか人々の関心が薄れ、人知れず地中に埋もれてしまっ

た。が、ある時、この名石の存在を知った一人の男が、それを掘り出しにかかった。紫色に輝く名石が地上に姿を見せたとき、一天にわかに暗雲に閉ざされ、目を開けておられぬほどの土砂降りとなり、せっかく掘り出した名石も再び地中深く埋まつてしまった……。

矢作神社の南西約三百メートル、今でも田が広がる一隅に、「紫石伝説地」と刻まれた石柱が建つ。しかし、石の埋まっている場所がここかどうかは定かではない。

●カ ッ ト

羽根小

加藤直樹



- *山本周五郎からの手紙 土岐 雄三 1500
- 未来社
- *青鞥(上・下) 瀬戸内晴美 各 980
- 中央公論社
- *竹久夢二正伝 岡崎まこと 2500
- 求龍堂
- *危機の義務教育 読売新聞解説部 600
- 有斐閣

*エベレストを越えて 植村 直己 360
 2月12日、冒険家の著者が北米最高峰のマッキンリーの冬期単独登頂に成功した後、消息を絶ててからすでに1年。「私にとって、良い山とはひとつの極限を意味している。そこへ向けて新しいものを見つける、新しいことを付け加える、そのための努力がすべてである。」と…。
 山を愛し、山に消えた不世出の冒険家にとって、エベレストこそ至上の良い山であった。

大いなる期待が若者に寄せられている。

今年、「国際青年年」。将来を担う若者と行動力にあふれた青年たちの力に世界中の人々が注目している。いつの世でも「今の若いもんは」と繰り返し言われてきたが、今年は二十一世紀を担う「今の若いもん」について、一層関心を高める年にしたと思う。

就職・進学のと時期となった。

中学三年の担任は、進路相談や書類作成など、一人ひとりの生徒のため、最善を尽くすべき最も忙しい時である。風邪の流行の季節でもある。健康に留意して、希望を達成させたい。生徒の悩みも多かるう。職場の協力態勢のもと、よき相談相手となり、激励してやりたい。

オアシス

あとわずかで今年度も終わる。教科を始め、年度初めに立てた計画が実践され、目標に到達したかどうか。到達していない場合には、補い指導を加えて、それぞれ一定の水準に到達させて終わらなくてはならない。教えるだけでなく、その結果に対しても責任を持たねばと思う。

すっかり葉の落ちた梅の枝が、冷たい風にじつと耐えて春を待つ。今では、冬も春も感じることでできないシヨッピングセンターの陣列棚の上でも、自然は正確に四季を伝え、刻一刻と生命をはぐくんでいる。はや、立春。ふくいくとした梅の香りが、多くの生命を甦らせる日も近い。